



天王祭の由来

「津島さん」「天王さん」と呼ばれて親しまれている「津島神社」は、1470余年もの伝統がある牛頭天王の総本社
 天王祭は津島神社の祭礼として600年近く続いています。その起源には、諸説ありまだ明らかではありませんが、長祿3年(1459)の記録が残されており、それ以前からおこなわれていたことは間違いありません。
 弘治4年(1558)織田信長が天王祭を観覧したのを始め、豊田秀吉や尾張藩主が頻りに観覧しています。
 天王祭は、古来旧暦6月14・15日に行われていましたが、昭和38年より7月第四土曜日(宵祭)翌日(朝祭)に改められ、昭和55年には国の重要無形民俗文化財に指定され、平成28年12月には、ユネスコ無形文化遺産に「尾張津島天王祭の車楽舟行事」として登録されました。

尾張津島天王祭おもてなしイベント Ten Age Fes 2026

場所 津島市文化会館 (津島町) 午後2時～午後8時
 場所 つしまクロス (天王寺町) 午後3時～午後7時



ユネスコ無形文化遺産

尾張津島天王祭

車楽舟行事



朝祭 7月26日(日)

午後9時10分から 天王川公園(小雨決行)

明けて朝、夜中の内に様変わりした津島五車と、先頭の市江車の6艘の
 だんじり舟は、屋台の上に等身大の能人形を飾り、古楽を奏でながら悠々と
 丸池に漕ぎ出て御旅所に向かう様は、王朝絵巻を見るようです。

池の中ごろまで進むと、先頭の市江車から十人の鉾持(未婚の男子)が
 布鉾を背負い池に飛び込み、御旅所まで泳ぎ着くと、神輿に拝礼し神社
 まで走り抜け神輿還御の先祓いとして道中を誂い清め神前に布鉾を奉納
 します。



市江車 布鉾奉納

市江車の鉾持が神社に奉納した布鉾のしずくを患部に
 つけると病氣やケガが治るといふ言い伝えがあります。

7月25日(土) 宵祭

午後6時から 天王川公園(小雨決行)

今市場(いまいちば)・筏場(いかだば)・下構(しもがまえ)・堤下(とうげ)・米之座(こめのざ)の津島旧五ヶ村から、屋形中央高く
 真柱(まばしら)を立て、一年の月数、その下に一年の日数、正面に
 ひと月の日数の提灯や絹灯籠など、約五〇〇個の提灯をかかげた、
 五艘のまきわら船が津島楽を奏でながら、丸池に漕ぎ出て、灯りが
 川面に映るさまは、幽玄の極みであります。

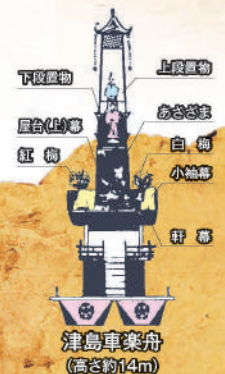
天王川公園 宵祭プログラム

	夜 6:00	6:30	7:00	7:30	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00
祭 事			場所: 車河戸	ゆらゆらと津島笛の音に兼代こぎすずもまきわら船			場所: 丸池	御旅所着	
		如意立火 (後灯は点火開始)			過え (津島からの舟連による まきわらの船の渡)	出船			
水上イベント 花 火		水上イベント・花火等(随時)							

但し、天候・出船の状況等により変更及び中止になる場合があります。



まきわら船 (高さ約20m)



津島車楽舟 (高さ約14m)

天王川公園～津島神社 朝祭プログラム

	朝 9:00	10:00	11:00	12:00
天王川公園		●鉾持飛び込み		
	9:10	9:30	10:15	11:00
	●迎え	●出船	●御旅所着(市江車) 稚児上陸	●「稚児」の神前奏楽
			●神輿還御	津島神社

但し、天候・出船の状況等により変更及び中止になる場合があります。

六百年の歴史と伝統を今に伝える
尾張津島天王祭

天王祭のながれ

12日(日) 宵竹立

朝祭を迎える2週間前に祭に参加する各町の境に、神社より手渡された宵竹(しめ縄を張った青竹)を立て、町を清浄にします。



船分け

23日(木) 船分け

午前7時30分祭に使用する船を古式により、宵祭の2日前の早朝に風流な「くじ」で分配します。
「くじ」で決められた船を車河戸に漕ぎ、屋台をのせて、祭の準備を始めます。



稚児打廻し

24日(金) 稚児打廻し

天王祭に奉仕する稚児には、5~7歳の男児が選ばれ、宵祭の前日夕刻、華麗なる装束(古式衣装)を着け、花鳥帽子(はなえぼし)を被り楯(こぼし)を肩に掛けて、車屋から回車で供回りと共に祭船の船上にて奉楽。その後、行列を整え津島神社に向かい、拝殿前を三回打廻し、稚児披露と祭の安全を祈った後、車屋に戻ります。

宵祭 25日(土)



神輿渡御

みこしとぎょ
神輿渡御
●午前10時

宵祭・朝祭を御神覽いただくため、神輿が津島神社より供進と共に御旅所に向かう様は厳粛であります。

如意点火~提灯点火 ●午後6時30分



如意点火~提灯点火

まきわら船の真柱(まばしら)に点灯する12個の提灯を、当番車の太鼓を合図に、競いあってあげたあと、各部分の提灯点火が進められます。



出船 ●午後8時15分頃

赤船に乗った神社の迎えの神職の挨拶をうけたまきわら船は、当番車から順次漕ぎ出します。

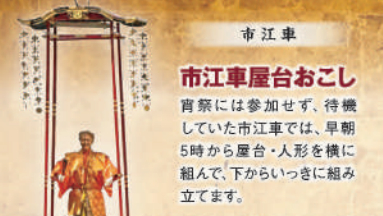


朝祭 26日(日)



御旅所着~稚児上陸

朝祭置物人形



市江車 市江車屋台おこし

宵祭には参加せず、待機していた市江車では、早朝5時から屋台・人形を横に組んで、下からいっきに組み立てます。

出船 ●午前9時30分

赤船に乗った神社の迎えの神職の挨拶をうけただんじり舟は、市江車を先頭に津島車が順次漕ぎ出します。

みこしとぎょ 神輿還御 ●午前11時

市江車・津島五車が御旅所に接岸し、稚児以下供回りが上陸し終わると神輿前で還御祭が行われた後、神輿を中心に供進に続き、市江車・津島五車の稚児供進は列を整え神社に向かいます。その後神前奉納を奉納し、巫事を終えて各車帰途につき、朝祭は終了します。



神輿還御



稚児神前奉納

本誌発行に同意(©2017 by 尾張津島朝祭実行委員会) © The Trustees of British Museum (2017)